

まちづくり学習会「移動支援について」に11名が参加！

人権としての交通権を学びました！



日本医療福祉生協連主催の「まちづくり学習会」（移動支援について）が、8月2日（金）14時～16時、オンラインで開催されました。福山医療生協から理事、まちづくり委員、職員の合計11名が参加しました。（参加生協は41生協）

最初に「交通権を保障した高齢者の移動支援」（講師：可児紀夫様 愛知大学地域政策学センター研究員）の学習講演があり、移動支援が必要になってきた原因（高齢化による免許の自主返納、買物や社会参加難民）、国の政策（モータリゼーションの発達と道路政策、運輸事業の規制緩和による公共交通の衰退）、外国の事例（ドイツの交通教育、フランスの交通権、アメリカの障がい者支援）、岐阜市の総合交通政策の紹介、木曽町の「まちづくり条例」による生活交通システムの構築、コープながのとタクシー事業者との協同した「お買い物サポートカー」事業等、人権としての交通権の必要性を学びました。

会員生協報告では、渡利おでかけサポートの会（福島医療生協）が報告しました。つながりの再構築の研修会で知り合った方と会を立ち上げ、ボランティア運転者講習会で7名の運転手を確保してスタートし、買い物支援等行っています。課題は財政的基盤の確保と事務局機能の強化です。続いて、NPO法人「まるっとおのくめ」（愛媛医療生協）が報告しました。松山市の小野・久米地区で活動しています。移動支援で利用する町の企業や事業所に賛助会員になって頂き、財政を支えている。両生協とも、生協のみでやっているのではなく、地域との連携で行っているのが特徴です。

当生協でも、支部役員や組合員の高齢化で、移動手段の確保が課題になっています。この学習会を機会に検討していけたらと考えています。（文責 花岡）